



## 物理インフラストラクチャの管理

---

この章は、次の項で構成されています。

- [物理インフラストラクチャの管理について, 1 ページ](#)
- [接続のテスト, 10 ページ](#)
- [デバイス検出の有効化, 11 ページ](#)

## 物理インフラストラクチャの管理について

Cisco UCS Director を使用すると、物理インフラストラクチャと仮想インフラストラクチャの両方を管理できます。Cisco UCS Director では、新しく作成された物理アカウントのすべてのコンポーネントを検出します。通常、検出プロセスには約 5 分かかります。ポッドを追加したり、デフォルトポッドを使うことができます。物理アカウントは、デフォルトのポッドにも、追加したポッドにも関連付けることができます。



---

(注) 管理者はシステムに、最初に物理アカウントやバーチャルアカウントを作成できます。Cisco UCS Director の物理アカウントは仮想（クラウド）アカウントに依存しません。

---

## サイトの追加

- ステップ 1** メニューバーで、[管理 (Administration)] > [物理アカウント (Physical Accounts)] の順に選択します。
- ステップ 2** [サイト管理 (Site Management)] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加 (Add)] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [サイトの追加 (Add Site)] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[サイト名 (Site Name) ] フィールド	サイトの記述名。
[説明 (Description) ] フィールド	サイトの説明 (ロケーション、重要性など)。
[連絡先の名前 (Contact Name) ] フィールド	このサイトの担当者の名前。

ステップ 5 [送信 (Submit) ] をクリックします。

## Pod の追加

ステップ 1 メニュー バーで、[管理 (Administration) ] > [物理アカウント (Physical Accounts) ] の順に選択します。

ステップ 2 [POD] タブをクリックします。

ステップ 3 [追加 (Add) ] をクリックします。

ステップ 4 [POD の追加 (Add Pod) ] ダイアログ ボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[名前 (Name) ] フィールド	Pod の記述名です。
[サイト (Site) ] ドロップダウンリスト	Pod を追加するサイトを選択します。環境にサイトがない場合は、このステップを省略できます。

名前	説明
[タイプ (Type) ] ドロップダウン リスト	<p>追加するポッドのタイプを選択します。次のタイプのいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [FlexPod]</li> <li>• [VersaStack]</li> <li>• [汎用 (Generic) ]</li> <li>• [ExpressPod ミディアム (ExpressPod Medium) ]</li> <li>• [VSPEX]</li> <li>• [ExpressPod スモール (ExpressPod Small) ]</li> <li>• [Vblock]</li> </ul> <p>汎用タイプ以外の Pod には、特定の物理コンポーネントおよび仮想コンポーネントにのみ対応しています。汎用ポッドには特定のポッドライセンスは必要ありません。また、汎用ポッドには、任意のタイプの物理コンポーネントまたは仮想コンポーネントを追加できます。Pod の実行に必要な個々のデバイス ライセンスを含む、バンドルされた Pod ライセンス (FlexPod、Vblock、VSPEX) の詳細については、『<a href="#">Cisco UCS Director Installation and Upgrade Guides</a>』を参照してください。</p> <p>(注) VersaStack ポッドと汎用ポッドのみが、Cisco UCS Director の IBM アカウントでサポートされています。</p>
[説明 (Description) ] フィールド	(任意) Pod の説明です。
[住所 (Address) ] フィールド	Pod の物理ロケーションです。たとえば、このフィールドには Pod の市区町村、またはその他の内部的な識別子を入力します。
[POD を非表示 (Hide Pod) ] チェック ボックス	<p>統合チェック ビューにポッドを表示したくない場合に、このチェック ボックスをオンにして、ポッドを非表示にします。Pod からアカウントの追加または削除は引き続き実行できます。</p> <p>たとえば、このチェック ボックスを使用して、物理要素や仮想要素の存在しないポッドが統合ビューに表示されないようにすることができます。</p>

**ステップ 5** [追加 (Add) ] をクリックします。

## 次の作業

Pod にアカウントを 1 つ以上追加します。

## 物理的なアカウントの追加

**ステップ 1** メニューバーで、[管理 (Administration)] > [物理アカウント (Physical Accounts)] の順に選択します。

**ステップ 2** [物理アカウント (Physical Accounts)] タブを選択します。

**ステップ 3** [追加 (Add)] (+) をクリックします。

**ステップ 4** [アカウントの追加 (Add Account)] ダイアログ ボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[POD] ドロップダウン リスト	物理アカウントが属する Pod を選択します。
[カテゴリ (Category)] ドロップダウン リスト	カテゴリ タイプを選択します ([コンピューティング (Computing)] または [ストレージ (Storage)])。[ストレージ (Storage)] を選択した場合は、ステップ 6 に進みます。
[アカウントタイプ (Account Type)] ドロップダウン リスト	この物理アカウントのアカウント タイプを次から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• UCSM</li> <li>• HP ILO</li> <li>• Ciscoラックサーバ(CIMC)</li> <li>• IPMI</li> </ul>

**ステップ 5** [送信 (Submit)] をクリックします。

**ステップ 6** [アカウントの追加 (Add Account)] ダイアログ ボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[認証タイプ (Authentication Type) ] ドロップダウンリスト	<p>このアカウントに使用する認証タイプを次から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ローカルで認証済み (Locally Authenticated) ] : ローカルで認証されたユーザアカウントとは、ファブリック インターコネクタを介して直接認証されたユーザアカウントのことであり、管理者権限または AAA (認証、認可、アカウントティング) 権限を持っていれば誰でも有効/無効にすることができます。</li> <li>• [リモートで認証済み (Remotely Authenticated) ] : リモートで認証されたユーザアカウントとは、LDAP、RADIUS、TACACS+のいずれかを介して認証されたユーザアカウントのことです。</li> </ul>
[サーバ管理 (Server Management) ] ドロップダウンリスト	<p>次のオプションのうちいずれかを選択して、このアカウントによってサーバを管理する方法を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [すべてのサーバ (All Servers) ]</li> <li>• [選択済みのサーバ (Selected Servers) ]</li> </ul>
[アカウント名 (Account Name) ] フィールド	追加したい物理アカウントに割り当てる固有の名前
[サーバのアドレス (Server Address) ] フィールド	サーバの IP アドレス。
[クレデンシャル ポリシーの使用 (Use Credential Policy) ] チェック ボックス	手動で情報を入力する代わりに、このアカウントのクレデンシャル ポリシーを使用する場合は、このチェック ボックスをオンにします。
[クレデンシャルポリシー (Credential Policy) ] ドロップダウン リスト	<p>[クレデンシャルポリシーの使用 (Use Credential Policy) ] チェック ボックスをオンにした場合は、このドロップダウン リストから使用するクレデンシャル ポリシーを選択します。</p> <p>このフィールドが表示されるのは、クレデンシャルポリシーの使用を選択した場合のみです。</p>
[ユーザ ID (User ID) ] フィールド	<p>このアカウントにアクセスするためのユーザ名。</p> <p>このフィールドは、クレデンシャル ポリシーの使用を選択した場合には表示されません。</p>

名前	説明
[パスワード (Password) ] フィールド	ユーザ名に関連付けられたパスワードです。 このフィールドは、クレデンシャル ポリシーの使用を選択した場合には表示されません。
[通信タイプ (Transport Type) ] ドロップダウン リスト	アカウントで使用する通信タイプを選択します。 次のいずれかになります。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• HTTP</li> <li>• HTTPS</li> </ul> このフィールドは、クレデンシャル ポリシーの使用を選択した場合には表示されません。
[ポート (Port) ] フィールド	サーバ ポート番号。 このフィールドは、クレデンシャル ポリシーの使用を選択した場合には表示されません。
[説明 (Description) ] フィールド	アカウントの説明。
[連絡先の電子メール (Contact Email) ] フィールド	アカウントの連絡先の電子メールアドレス。
[ロケーション (Location) ] フィールド	ロケーション。
[サービス プロバイダー (Service Provider) ] フィールド	サービス プロバイダーの名前 (既存する場合) 。

**ステップ 7** このアカウントがストレージである場合、適切なアカウントタイプとして、[NetApp ONTAP]、[NetApp OnCommand]、[EMC VNX]、[EMC VMAX Solutions Enabler] または [WHIPTAIL] の中から選択します。

**ステップ 8** [追加 (Add) ] をクリックします。

## マルチドメイン マネージャ アカウントの追加

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

- ステップ 1** メニューバーで、[管理 (Administration)] > [物理アカウント (Physical Accounts)] の順に選択します。
- ステップ 2** [マルチドメイン マネージャ (Multi-domain Managers)] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加 (Add)] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [アカウントの追加 (Add Account)] ダイアログ ボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[アカウント名 (Account Name)] フィールド	このマルチドメイン マネージャ アカウントが属するアカウント名を選択します。
[説明 (Description)] フィールド	(任意) アカウントについての説明。
[アカウント タイプ (Account Type)] ドロップダウン リスト	このマルチドメイン マネージャ アカウントのアカウント タイプを次から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• PNSC : Cisco Prime ネットワーク サービス コントローラ アカウント。</li> <li>• UCS Central : Cisco UCS Central アカウント。</li> </ul>
[サーバのアドレス (Server Address)] フィールド	マルチドメイン マネージャ アカウントを管理するサーバの IP アドレスを入力します。
[アカウント名 (Account Name)] フィールド	追加したい物理アカウントに割り当てる固有の名前
[サーバのアドレス (Server Address)] フィールド	サーバの IP アドレス。
[ユーザ ID (User ID)] フィールド	このアカウントにアクセスするためのユーザ名。
[パスワード (Password)] フィールド	ユーザ名に関連付けられたパスワードです。
[通信タイプ (Transport Type)] ドロップダウン リスト	アカウントで使用する通信タイプを選択します。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• http</li> <li>• https</li> </ul>
[ポート (Port)] フィールド	サーバポート番号。デフォルトポートは443です。

名前	説明
[連絡先の電子メール (Contact Email) ] フィールド	(任意) アカウントの連絡先電子メールアドレス。
[ロケーション (Location) ] フィールド	(任意) ロケーション。

ステップ 5 [送信 (Submit) ] をクリックします。

## ネットワーク要素の追加

ロードバランシングをサポートする仮想サーバを作成するには、最初にネットワーク要素を Cisco UCS Director に追加しておく必要があります。ロードバランサを Cisco UCS Director のネットワーク要素として追加した後、[管理するネットワーク機器 (Managed Network Element) ] タブにその要素が表示されます。

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

ステップ 1 メニューバーで、[管理 (Administration) ] > [物理アカウント (Physical Accounts) ] の順に選択します。

ステップ 2 [管理するネットワーク機器 (Managed Network Elements) ] タブを選択します。

ステップ 3 [ネットワーク機器の追加 (Add Network Element) ] をクリックします。

ステップ 4 [ネットワーク機器の追加 (Add Network Element) ] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[POD] ドロップダウン リスト	ネットワーク要素が属するポッドを選択します。
[デバイスカテゴリ (Device Category) ] ドロップダウン リスト	このネットワーク要素のデバイス カテゴリを選択します。たとえば [F5 ロードバランサ (F5 Load Balancer) ] を選択します。
[デバイス IP (Device IP) ] フィールド	このデバイスの IP アドレス。



名前	説明
[プロトコル (Protocol) ] ドロップダウン リスト	使用されるプロトコルを選択します。リストには次の内容が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Telnet</li><li>• SSH</li><li>• HTTP</li><li>• HTTPS</li></ul> (注) F5 ロード バランサ デバイスを使用する場合、HTTP および HTTPS のみを選択できます。
[ポート (Port) ] フィールド	使用するポート番号。
[ログイン (Login) ] フィールド	ログイン名。
[パスワード (Password) ] フィールド	ログイン名に関連付けられるパスワード。

**ステップ 5** [送信 (Submit) ] をクリックします。

F5 ロード バランサの追加が、システム タスクのインベントリ収集のトリガーとなります。[システムのタスク (System Tasks) ] タブで設定されるポーリング間隔はインベントリ収集の頻度を指定します。

#### 次の作業

仮想サーバを変更または編集するには、サーバを選択して [変更 (Modify) ] ボタンをクリックします。仮想サーバを削除するには、サーバを選択して [削除 (Delete) ] ボタンをクリックします。

## DHCP ログイングのイネーブル化

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

- 
- ステップ1 メニューバーで、[管理 (Administration)] > [物理アカウント (Physical Accounts)] の順に選択します。
  - ステップ2 [ネットワークサービスエージェント (Network Service Agents)] タブを選択します。
  - ステップ3 [組み込みネットワークサービス (Embedded Network Services)] をクリックします。
  - ステップ4 [組み込みネットワークサービス (Embedded Network Services)] ダイアログボックスで、[DHCP ログイングを有効にする (Enable DHCP Logging)] チェックボックスをオンにします。
- 

## 接続のテスト

管理対象ネットワーク要素および物理的なアカウントに対して接続をテストできます。

### 管理対象ネットワーク機器の接続テスト

- 
- ステップ1 メニューバーで、[管理 (Administration)] > [物理アカウント (Physical Accounts)] の順に選択します。
  - ステップ2 [管理するネットワーク機器 (Managed Network Elements)] タブを選択します。
  - ステップ3 接続をテストするポッドを選択します。
  - ステップ4 [テスト接続 (Test Connection)] をクリックします。
- 

### 物理アカウントへの接続のテスト

ポッドをアカウントに追加した後は、いつでも接続をテストできます。

- 
- ステップ1 メニューバーで、[管理 (Administration)] > [物理アカウント (Physical Accounts)] の順に選択します。
  - ステップ2 テストするアカウントタイプに対応するタブをクリックします。  
たとえば、[物理アカウント (Physical Accounts)] タブまたは [マルチドメイン マネージャ (Multi-Domain Managers)] タブをクリックします。

- ステップ3** テーブルで、接続のテスト対象となるアカウントの行をクリックします。
- ステップ4** [テスト接続 (Test Connection)] をクリックします。
- ステップ5** 接続テストが完了したら、[閉じる (Close)] をクリックします。

### 次の作業

接続が失敗した場合は、ユーザ名やパスワードを含め、アカウントの構成を検証します。ユーザ名とパスワードが正しい場合は、ネットワーク接続に問題があるかどうかを確認します。

## デバイス検出の有効化

- ステップ1** メニューバーで、[管理 (Administration)] > [物理アカウント (Physical Accounts)] の順に選択します。
- ステップ2** デバイスの検出を検証するアカウントをクリックします。
- ステップ3** [検出されたデバイス (Discovered Devices)] タブを選択します。
- ステップ4** [設定の検出 (Setup Discovery)] をクリックします。
- ステップ5** [設定の検出 (Setup Discovery)] ダイアログボックスで、[検出を有効にする (Enable Discovery)] チェックボックスをオンにして検出を有効にします。
- ステップ6** [設定の検出 (Setup Discovery)] ダイアログボックスで、[IP アドレス範囲 (IP address range)] フィールドに入力し、ご使用の環境で次のフィールドのデフォルト値が適切かどうかを判断します。

名前	説明
[検出を有効にする (Enable Discovery)] チェックボックス	このチェックボックスは、対象のアカウントに対するデバイス検出を有効にするためにデフォルトでオンになっています。
[IP範囲 (IP Range)] フィールド	デバイス検出の IP アドレス範囲。(例: 10.1.1.1-10.1.1.12)
[TCPタイムアウト(ミリ秒単位) (TCP Timeout(ms)) ] フィールド	TCP のタイムアウト (ms) (デフォルト値は 2000 ms)。
[SNMPタイムアウト(ミリ秒単位) (SNMP Timeout (ms)) ] フィールド	SNMP のタイムアウト (ms) (デフォルト値は 1500 ms)。
[SNMPコミュニティストリング (SNMP Community Strings) ] フィールド	SNMP コミュニティストリング (デフォルトは [パブリック (public)] )。

**ステップ7** [送信 (Submit) ] をクリックします。

---